

## 銚子市総合計画審議会（第1回） 会議内容

1 日 時 平成29年2月10日（金）15:00～17:00

2 場 所 銚子市役所1階市民ホール

3 出席者

○委員 14名出席

|          |   |          |   |          |   |
|----------|---|----------|---|----------|---|
| 関谷 昇 委員  | 出 | 柏熊 聖子 委員 | 出 | 木村 栄宏 委員 | 出 |
| 市田 哲也 委員 | 出 | 加瀬 隆 委員  | 出 | 佐藤 直子 委員 | 出 |
| 吉川 リアン委員 | 欠 | 野口 光男 委員 | 出 | 石上 藤吾 委員 | 出 |
| 辻 勝美 委員  | 欠 | 宮内 勝雄 委員 | 出 | 宮内 利明 委員 | 欠 |
| 宮崎 光子 委員 | 出 | 佐野 哲之 委員 | 出 | 伊東 好雄 委員 | 出 |
| 大野 慶周 委員 | 出 | 飯田 貴之 委員 | 欠 | 飯塚 禎司 委員 | 出 |

○銚子市

越川市長、島田副市長、宮澤政策企画部長、伊藤企画課長、花野企画課長補佐、垣沼主査、平野主任主事

## 4 会議内容

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 市長あいさつ

皆さまこんにちは。銚子市長の越川でございます。本日は大変お忙しい中、第1回目の銚子市総合計画審議会、「総計審」と呼んでおりますが、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。また皆さまには快く委員をお引き受けいただきまして、感謝を申し上げます。

お手元に現在の銚子市の総合計画「銚子ルネッサンス2025」をお配りいたしました。これは平成13年3月に策定されたもので、既に計画策定から15年が経過しております。計画と実際の銚子市の状況には大きなかい離が生じているのが現実の姿です。具体的に申し上げますと、この平成13年当時の2025年の人口目標は78,000人でした。これが平成25年の国立社会保障人口問題研究所の推計値では、同じ2025年の人口が54,000人ということで、実際には23,000人ものかい離が生じているというのが銚子の厳しい状況でございます。また、社会経済状況も大きく変化しており、実態に見合った総合計画に作り直そうというのが今回の趣旨でございます。市民の暮らし、保健、福祉、教育、子育て、文化、産業、生活環境、都市整備、交通など、様々な分野にわたりまして、これから10年間の銚子市のまちづくりの指針を定めて参りたいと思っております。皆さまには様々な議論をいただきながら、2年程度かけて計画を作る予定でございます。また、計画づくりにあたって特に留意したいのは、これまでのように行政が原案を考えて審議していただくということではなく、市民のワークシ

ヨップのようなものを開催し、これまであまり市政に声を届ける機会の無かった市民、将来を担う子どもたちや若者、女性の声を反映させたような総合計画にしていきたいと思っております。「計画のための計画」にしないためにも、市民が計画づくりに参画し、そしていかに自分たちに内面化していくかということが成功の秘訣だと思っております。過程が大事だと思っております。ぜひ市民の視点に立った市民主導の計画づくり、実行性のある計画づくりにご協力いただけますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### (4) 出席職員の紹介

上記のとおり

#### (5) 会長及び副会長の選出について

会長に関谷昇委員を、副会長に柏熊聖子委員を選出

##### 関谷会長あいさつ

銚子市総合計画審議会の会長ということで重責なポジションではございますが、改めて拝命し、責任の重みを感じているところでございます。

この総合計画づくりは、先ほど市長からもお話がありましたように、このまちの最上位計画ということになりますので、いろいろな取組を実行していく、計画していくにあたって、常に立ち返るもの、これが総合計画の意義でございます。これから銚子市がいろいろな分野において、どう考えてどういう方向性でいくのか、議論を重ねながら示していくこととなります。この「ルネッサンス 2025」は平成 13 年に策定されたということですが、ご指摘のようにいろいろと社会状況が変わり、様々な考え方も出てきている中で、改めて見直しを図りこれからの方向性を見出していく。そういう非常に大事な機会、プロセスになるかと思えます。この審議会としても大きな役割を果たしていかなければならないと思っております。いろいろな議論が出てくるかとは思いますが、皆さんそれぞれのご意見、ご経験、ご見識を賜りながら、少しでもより良い総合計画を策定できればと考えております。

私は 4～5 年前から円卓会議や総合戦略策定、その後の検証委員会で役割を仰せつかっておりますが、いずれにしても銚子市のいろいろな可能性をつなぐということを意識したいと思っております。いろいろな方々のいろいろな取組がこれまで様々な形で出てきておりました。これからの時代は、それをつないでもっと大きな、もっと新しい動きを作り出していないと、人口減少や少子高齢化などのいろいろな問題を抱える中で乗り切っていくということは難しくなっております。問題を切り開くことが出来るような総合計画づくりにしていければと思います。微力ながら貢献できれば、そして皆さんのご協力を最大限仰ぎながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

#### (6) 銚子市総合計画策定方針及び策定スケジュールについて

事務局から資料に基づき説明

### ●関谷会長

今、事務局の方から資料1に基づいてこの総合計画の見直しの必要性和、そのポイント、策定スケジュールを説明していただきました。この部分についてご質問やご意見があれば頂戴したいと思います。

この「総合計画」というのは、一般的な傾向として分野別で作られるパターンが圧倒的に多いです。同時に、これは専門家の間ではだいぶ前から指摘されてきたことですが、役所の縦割りを分野別に反映しており、市民の実際の生活にどのように対応しているのかという部分で少しずれがあった。だからこそ、もっと市民生活に資するような計画にしていかなければならないということが指摘されてきました。そういう意味で改めて総合計画の構成の仕方も工夫していく必要となります。

先ほど事務局の方から「ライフステージ」「ライフサイクル」というお話がありましたが、これは非常に大事な視点かと思います。要するに、人間が生まれてから死ぬまでのプロセス、生活の局面において、市としてどういう支援をすべきか、どういう取組を作り出していくべきかということが問われてくる。例えば、子供が生まれたらその段階でどういうことが必要なのか、幼稚園や学校教育の問題、様々な保障はどうなのか。そういう風に考えていくと、それぞれのステージごとに必要なことがたくさんあり、そのあたりが有機的に結びついてこないとならない。ただ単発で、こういう事業があります、こういう支援がありますというのではなく、それぞれの取組がもっと有機的に結びついて効果が出るような計画にしていけることが各方面で強く問われているところです。そういった計画づくりを銚子市でこれからできるかどうか、大きな問いになります。

「使える計画」に出来るかどうか重要です。イメージ的には、この総合計画ができあがったら、職員の方々は常にこの総合計画に立ち返り、今行っている事業がその方向性になっているのか、もっとどんなことをしなければならないのか、常に立ち返って考え見直す。そういう風に使われるものが、本来の活きた総合計画だと言われております。そのように考えていくと、行政にできること、行政だからできないことも出て来るかと思えます。そういう中で近年はどんどん市民の力をまちづくりに生かしていく必要性がありますが、そのためにはもっと市民と行政がいろいろなやりとりを重ね、それぞれにどんなことが出来るのか、どんな力をこの銚子のまちづくりに生かせるのか、このあたりを議論しながら確かめながら膨らませていく。これがこれからのまちづくりに問われてくることかと思えます。裾野を開いていくような計画にできるかどうかということも大きく問われているところかと思えます。

### ◆野口委員

スケジュールを見させていただきました。今日は平成29年の2月で、最終の完成は平成30年の11月、約2年近くをかけてこの計画を作るということですが、そうなりますと、その間かなり社会情勢が変わるでしょうから、中間で何か作る、あるいはもう少しスピード感のある計画を作るという考えもあると思いますが、いかがでしょうか。

### ○事務局

2年をかけて作ることを計画しております。前回行政主導で作成した際も、1年～1年半かかっているという実態でございます。確かにおっしゃるとおり、社会情勢が非常に速いスピ

一で変わっているということもあり、どこかの時点で中間報告として一度お示しした方がいかと考えられますので、委員の皆さまのご意見を聞きながら、こういった部分を報告した方が良いということがあれば、事務局の方に伝えていただければと思います。

基本的には、2年の中の最初の1年で市民の方に議論していただいたうえで、長期計画にあたる基本構想、市の将来像・進むべき方向性を決めようと考えております。その時にはまた皆さんにもご相談させていただくことになると思います。後半の1年でその下にある施策レベルの5か年計画、具体的なプロジェクトや事業がここにあたりますが、後半の1年はそちらの方に力を入れていくことになります。前半で基本構想を作った際には、その1年間検討したものをお示し、皆さまにこういうこと将来像として決めさせてもらいたいとお諮りをしたうえで、いや1年前からこういう風が変わったのだという議論にもなるかと思っておりますので、そういう議論をいただいたうえで、今度は次の5か年計画と考えております。

#### ●関谷会長

時間が2年と言いますと少し長いという印象を持たれる方もいるかもしれませんが、逆に言うと、それだけ時間をかけながらいろいろな声を拾いあげて様々な可能性を引き出していくことの積み重ねの中で、大きな長期的な方向性を作り出していくというステップで行いますので、改めてご助力をいただければと思います。ただ、ご指摘のとおり要素所で各情報を共有する必要がありますし、もちろん計画づくりと実際すでに動いている部分の両方あるかと思っておりますので、実際の部分に生かせる部分は生かしていき、計画づくりと実際に動いているまちづくり両方を見据えながらご意見ご協力をお願い申し上げます。

#### ◆木村委員

今のご意見にも関連しますが、この総合計画を市民の力を使って作っていくということですが、作っている最中の宣伝と言いますか、市民の方に総合計画を作っているという認識が必要かと思っております。この「ルネッサンス2025」は一度改訂されておりますし、市民の中にはこの「ルネッサンス2025」があることすら忘れてしまっている方もいるかと思っております。ぜひ、こういう改訂作業があること自体の宣伝も出来ればと思います。

もう1点は質問というよりは確認事項です。先日策定した「しごと・ひと・まち創生総合戦略」は、この総合計画の下位計画に当たりますが、その策定時に議論されてきたことと重なる部分、踏まえる部分がかかなりあるかと思っております。総合計画と総合戦略の反映される部分を、改めて確認できればと思います。

#### ○事務局

一つ目についてですが、行政にとっても市民の方に議論をいただいたうえで計画を作っていくというプロセスが初めてなものですから、紆余曲折はあるかと思っておりますが、今後そういう形で進めるからには広く認知していくことが大切かと思っておりますので、工夫をしながら進めたいと考えております。

二つ目の、総合戦略との整合ということだと思っておりますが、これは昨年度作成し、毎年度検証していくものですので、総合計画の例えば産業などの分野については、総合計画の中心的位置づけになっていくものと思っております。そのうえで最初の5年でやるべきこと、

次の5年でやるべきことを市民の皆さんと議論しながら、どれを位置付けてどういう分野が足りないのかということが当然出てくるかと思えます。いずれにしても、昨年度作成した総合戦略を毎年検証していく中で、総合計画のそれぞれの分野での位置付けの中心的な部分になってくるかと思えます。

●関谷会長

ご指摘のように、このプロセスはとにかくいろいろなご意見・ご協力をいただきながら作っていくことが必要です。とにかく皆で作っていくという雰囲気を作り出さないで、計画のための計画になってしまう。その点をご指摘のとおりかと思えます。

それから総合戦略との関わりについても基本的には今の説明のとおりかと思えます。総合戦略というのは非常に絞り込んだ事業で、そこに国のお金がありいろいろな事業が既に進んでいるところかと思えます。これをもっと本格的に進めていくためには、総合計画全体の中に位置付けていくことが間違いなく必要です。総合戦略だけでは不足することが多々ありますし、何よりも先ほど申し上げた、色々な取組が有機的に繋がらなければならないという部分で、例えば産業の活性化と言っても、産業の活性化だけで産業が活性化するののかと言えば決してそういうわけではない。もっといろいろな動き、いろいろな分野、いろいろな人たちを巻き込むような仕掛けが必要になっていきますので、そういう広がりの中での位置づけということも考えていただければと思います。

●柏熊副会長

確認ですが、この5ページのスケジュールはどのように読めばいいのでしょうか。

総合計画審議会は平成29年2月にやり、次は平成30年2月になってしまうということですよね。その間に各部課長さんたちが計画策定委員会の専門部会を開催し策定して、今度は市民参加型のワークショップをやって、また差し戻して会議を行って、というような形で行うわけですが、その間の1年間は、私たち委員は任意参加型の市民ワークショップに参加すればいいということでしょうか。そのお知らせはいただけるものなのでしょうか。

○事務局

ご指摘のとおりです。市民ワークショップのご案内は当然皆さま方にもお知らせをいたしますし、出来るだけご参加いただきたいと思います。また、ワークショップでどういった議論があったか、その結果につきましても審議会委員の皆さまにその都度ご報告をさせていただきます。予定です。

●柏熊副会長

総合計画策定委員専門部会の方で、こういうことが決まったのでこういうワークショップを行いますというところまで、私たちの方に情報がいただけるということでよろしいでしょうか。ワークショップの開催案内だけでなく、今こういう方向に向いているのでこういうことをするんですという情報がいただけるのでしょうか。

○事務局

そうですね。市役所の内部の専門部会で行われた議論も含めての情報をお知らせさせていただき、そのうえで、できましたらワークショップの方にもご参加いただきたいと思いますと考えております。

●柏熊副会長

先ほど市長さんから、今度の総合計画は市民主導で策定するという発言がありました。出来るだけ委員の皆さまは、任意という言葉がありました。もう少し強い方向で参加していただけて広く意見を聞き、1年後のこの会議でいろいろ話し合いが出来たらいいなと思います。

○事務局

総合計画審議会は本来総合計画の原案やたたき台、今回はどんな形で作るかはわかりませんが、今までの銚子市の場合は行政主導で作った原案を皆さんに「諮問」という形でお示しし、それについて議論いただくというのが総合計画審議会の本来の趣旨です。市民のワークショップは、そのたたき台を作り上げていくためのワークショップです。議論のたたき台が何もない中での議論は難しいと思いますので、行政側の専門部会に出てきた案をワークショップに提示させていただき、そこで行政の考えや現状を見ていただき、ワークショップでこういう方向にしていきたいと思いますという議論をいただきたいと思います。

そこへの委員の皆さまの参画というのは、先ほど申し上げましたように、総合計画審議会が出来上がった原案をいろいろな目で見えていただく場であり、本来原案を作る側に強制的に入っていただくと、自分たちが作り上げたものを諮問・答申するという形になってしまいますので、本来の趣旨とは少し違うと思います。しかし今回は初めての手法であり、趣旨とはずれる部分もあるけれども、市民ワークショップの議論の場には是非皆さんにもご参加いただきたいと思いますという考えを持っております。

●柏熊副会長

そこに参画するのではなく、オブザーバーとしてでも皆さんがどういう意見を言っているのかを、やはり委員の皆さまは知るべきだと思いますので発言させていただきました。

○事務局

まさにそういう意図でぜひご参加いただければと思います。その場で色々ご意見を求められることもあるかと思いますが、臨機応変な形でもいいのかなと思っております。

●関谷会長

総合計画づくりというと、全国の自治体の大半はコンサルタントに丸投げして原案を作ってもらい、それを審議会に提出して諮るとというのがよくあるパターンです。しかしそれではダメだという一定の覚悟があり、だからこそ市民がどんどん参画していろいろな地域の実情を共有して意見を膨らませながら計画を作っていく必要があります。今回銚子市では初めてこういうスタイルで計画づくりを行うわけですが、各方面いろいろと不安な部分もあるかと

と思いますが、こういった形で作り上げられた計画は本当に生きるものになると思いますので、そういう風なプロセスを踏んでいただければと思います。初めから固めてしまうのではなく、専門部会と市民のワークショップを行ったり来たりし、相互に提案しあいながら形を作っていくというイメージかと思います。

委員の参加については、形式的には「原案を作る場」と「諮問する場」で立場上の違いはありますが、皆さんは審議会の立場とそれぞれ個々市民の立場と両方あるわけですから、個々の立場としてこういったワークショップに参加するというのは大いにあり得ることですから、そこでいろいろと意見交換・情報交換をしていただければと思いますし、いろいろな議論を共有していくことは、この審議会の委員としてこの場に出てきたときにも十分大きな意味を持つかと思います。臨機応変に、柔軟に臨んでいただければと思います。

◆宮崎委員

ひとつわからないことがあります。総合計画（案）の（案）はいつとれるのでしょうか

○事務局

この総合計画審議会で議論し出来上がったものを、最終的な（案）という形で議会の議決にかけて承認をされれば、その（案）が取れて正式に銚子市の総合計画となります。

◆宮崎委員

議会にかけるわけですね。

○事務局

そうです。先ほど基本構想策定の義務は無くなったとお話しさせていただきましたが、一方で議会の基本条例というもので、議会の議決事項が決められております。その中で、基本構想とこれに基づく計画については議会の議決事項となっておりますので、最終的には条例によって議決が必要となっております。その議決にかける最終的な（案）という形で出来たものを皆さんに見ていただいて、これでいいだろうあるいはこの部分はこういう方向性を少し加味した方が良好だろうという議論をいただいて、最終的に議会に出す（案）を決める、という形になります。

●関谷会長

最終的に確定するまでのプロセスが少しややこしいかと思いますが、審議会でオーソライズしたものを市議会にかけることとなります。最終的には議会が市の意思決定機関となり、そこで承認されて初めて（案）が取れるということになります。

他にご質問・ご意見等なければ、この策定の方針とスケジュールについてご承認をいただきたいと思います。ご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

挙手全員で承認

●関谷会長

ありがとうございます。多少変わってくる部分もあるかと思いますが、基本的にはこのスケジュールに沿って各部門の動きを進めていくこととなります。そして、この方針に基づいていろいろな形で議論を膨らませながら最終的な原案というものを作っていければと思います。2年間ということでは長いスパンにはなりますが、先ほど確認しましたように要所要所で議論やご指摘をいただきながら、議論の方を進めていければと思いますので、ご協力をお願いいたします。

(7) その他

○事務局

事務局の方からは特に議題はございません。皆さまにせっかくお集まりいただいた機会ですので、先ほどの議題以外で疑問点やご意見等あればこの場でお伺いしたいと思います。

●関谷会長

総合計画づくりは、ご承認いただきましたようにこの方針、スケジュールに沿って進めていきたいと思いますが、それに限らず、せっかくそれぞれの立場からこの審議会にご参画いただいておりますので、何か、総合計画に限らず確認しておきたいことがありましたら頂戴できればと思います。

◆伊東委員

この総合計画 2025 ですが、市長さんの方から現状とかなりかい離が出ているという発言もありましたが、その中でもこれを見させていただきますと、77 ページ 4 番の「環境にやさしい農業をすすめる」と書いてありますが、専門家の方が作ったものだと思いますが、こういったことというのは農業の方に徹底されているのでしょうか。ここに書いてあるだけで終わってしまっているような気がしてなりません。実際にこれは農家さんと議論して書かれていることなのでしょうか。また他の記述については、どうなのでしょうか。

◆宮内（勝）委員

環境に優しい農業ということで、今日は市役所の産業観光部は来ておりませんが、銚子はキャベツや大根の産地でございます。具体的に行っているのは「ちばエコ農産物」という千葉県の基準を用い、肥料や農薬をある程度限定し生産しております。販売の時点でも、「ちばエコ農産物」の基準を満たしたものとして実際の市場に流通させています。はっきりした数字はこの場では申し上げられませんが、総体の 50%弱程度の数量は出荷しております。当然肥料は有機質を含んだ肥料を指定して使ってもらっております。農薬に関しても使用基準を決めております。残念なことに、販売価格はひと箱あたり 10kg で 30~40 円くらいは一般のものより高くなってはおりますが、コストを考えると厳しいところがあるのが現実です。それでも、生産者の方は有機質肥料の良さや、少しでも農薬を使わずに、という考えで出荷をしている方はかなりいらっしゃいます。

ただ正直、伊東委員がおっしゃったように、100%そうかと言えばそうではありません。農協としても、もう少し市の農産課さんと協力し、出荷量を増やしていきたいと考えておりま



す。

◆伊東委員

市と農協さんが話し合っただけで作った文章ならばいいのですが、市や政治家が適当に作ったような文章なんじゃないかという印象を受けましたので質問させていただきました。

●関谷会長

そこは大事なご指摘です。それぞれ専門分野に携わっている方々がいるわけですから、その方々とのやりとりを重ねながら、今どんな問題、状況なのか、どんなことが出来るのかということを膨らませていき、計画の中に反映されていかないと、特定の視点だけでは生きた計画にはならないと思います。本当にご指摘のとおりいろいろなやりとりを重ねながら、実質的な部分としていけるかどうかが重要となります。

○事務局

少し補足をさせていただきますと、総合計画の 77 ページを例に挙げていただきましたが、基本的にはコンサル会社が作ってはいますが、その材料として担当課からこういう方向がいい、こういう事業を進めたいというのは聞いておりますし、その担当課から出る元には、関係団体とのやり取りが少なからずあります。総合計画審議会で最終的に案の内容を見ていただく時にも、当時の農協の組合長さんに委員としてご参画いただきお目通しをしていただいていると思います。そういう意味では関係団体にも伝わっているのではないかと思います。ここに 4 つ主な事業として載せられているものは、何らかの形で進められている事業かと思えます。

ただ中には、71 ページにあります、企業誘致や創業という部分で「進出企業に対する支援の検討」とありますが、これは正直あまり進んでおりません。この策定当時はこういうものを目指していくべきだということで位置づけはしましたが、この 5 か年の中ではほとんど進んでいなかったものも正直ございます。そういう意味でも今度の総合計画に位置付けるものについては、やはり市民の皆さんの手で作ったもの、それから行政と市民、あるいは団体との役割分担をしっかりと議論したうえで位置づけていくことを考えておりますので、もう少し見てもらえる計画になるのではないかと期待しております。

◆伊東委員

期間が長過ぎましたよね。あまりにも。今回改訂されるということですが、長い計画を作り過ぎたと思います。

◆宮崎委員

5 年は長いですね。銚子市は今たくさん計画を改訂している。どのような計画が出来上がってくるかはわかりませんが、出来上がったなら全然実情と違ったということがあるかもしれない。

#### ◇越川市長

最初にも作る過程が大事だと申し上げましたが、今銚子市でもいろいろな動きが出てきております。銚子商業の生徒さんが銚子電鉄の電車を復活させたり、あるいは竹久夢二をテーマに銚子浪漫プロジェクトという女性の知恵を生かした活動があったり、この総合計画が血となり肉となるものにしていくためには、自分たちの提案したことがいかに具体化されていくかというプロセスが大事になります。今回初めて市民ワークショップという形で計画を策定します。行政側が原案を作り目標とするのではなく、白紙の状態でいろいろな提案を出していただいて、それをひとつでも、ふたつでも計画に組み込むということを、新しい銚子の形として進めていきたいと思っております。総論的に何でもかんでも詰め込むというよりは、強弱をつけ、ここはぜひとも市民との共同事業で実行したいなというメリハリをつけていきたいと考えております。

#### ◆大野委員

今のお話を聞いて、総合計画審議会という我々の立場は非常に責任のある立場なのだと感じました。わからないことを諮問されてもわからないですとなってしまうので、それぞれ皆さん得意な分野がある方が委員となっているかと思いますが、条例では委員は30人以内となっており、まだもう少しお互いの知識を補い合うような分野の委員がいてもいいのではないかという気がします。いろいろな分野でお互いに知らないことを手伝い合わないと、最終的な方針が出ないと思います。各ワークショップに参加すると言っても自分が知らない分野ではあまり発言できないと思います。また市民主導で作成するということですが、私たちが作った答申を皆さんプロの方々が認めるのかという不安もあるかと思えます。

#### ◆木村委員

それにも関連しますが、この「銚子ルネッサンス2025」の111ページに「開かれた行政づくりを進める」とあり、主な事業が羅列してありますが、こういう取組がもう少し早くできていればと思います。実行することが大事かと思えます。

もうひとつ、銚子市と似たような問題を抱えている市がいくつかあると思いますが、銚子市の職員さんがそういうところに出張に行き話を聞いてきたり、お互い意見交換したり連携したりすることがあれば、お互いのまちが活性化するヒントがあるかもしれません。実際に出張をすることが実現可能かはわかりませんが、期待しています。

#### ◆佐野委員

市民のワークショップはどういった形で行われる予定でしょうか。

#### ○事務局

細かい部分はこれから内部で調整しますが、1回のワークショップを2時間くらいかけてやるとした場合に、冒頭の30分くらいは、まず市の専門部会で議論した内容を基に、市の職員が勉強会形式で説明をさせていただいて、残りの1時間半程度でグループワークを行い、グループごとに意見出しをし、最後意見発表をしていただくようなイメージを考えております。

募集の仕方ですが、基本的には市民の皆さんに広報や市のホームページでご案内します。ただ議論するにあたってそれなりの専門の方が必要かと思しますので、必要な市民の方には個別にお声掛けするという事も考えております。

◆佐野委員

今こちらにいらっしゃる委員の方は、平均すると50代男性が多く、この場で決めてしまうと50代男性の銚子市民の声になってしまうと思います。市民ワークショップをやると言いますが、私なんかは子どもが出来当事者になって初めて保育園に入れる大変さや子育ての大変さが分かったということがあります。要は、そういったワークショップをやる際に、ぜひ一番関係のある方を呼んでいただきたいと思います。そういった方が本当に切実な意見を言ってくれると思います。声をあげる人の意見を吸うのではなく、普段声をあげられない方の意見を汲み取れるような仕組みをぜひ作っていただきたいと思います。

◆市田委員

ワークショップについてですが、私は今までいろいろな銚子市内のワークショップに参加しておりますが、ほぼ同じメンバーです。ということは、わざわざ市民ワークショップを開く必要がないじゃないかと言われてしまう可能性もあります。このワークショップにどんな人が来るのか、どういう広報をするのか、この課題について一番傾注している人たちをどうやって集めるのか、非常に難しい問題だと思います。事務局の方でこれからワークショップに人を集める方法も検討されると思いますが、この点については本当に真剣に議論していただきたいと思います。

●関谷会長

その点は非常に大事な部分です。本当によくあるパターンは、いつも同じメンバーしか集まってくれない。市民ワークショップの公募の仕方、参加を促す広報の仕方は工夫する必要があると思います。

またワークショップはずっと同じメンバーで進んでいくとは捉えない方が良くないかと思えます。常にメンバーは入れ替わったり新しく加わったりします。ずっと参加する方もいいし、そのテーマに合わせて、たとえば子育てに関して自分は当事者で言いたいこともあるということであれば、そのテーマで議論するときに参加するという参加の仕方であってもいいと思います。あるいは、会議体という場に出てくること自体が非常に難しいという方もいるでしょうから、インターネットなどを通じて、ネットベースで意見を集めていくなど、物理的にはいくらでもできます。そういうような形でもっと若い人の意見を募っていくといったことも出来ると思います。そのあたりをどうしていくかという点は少し詰める必要があるかと思いますが、いろいろなやり方を駆使しながら、いろいろな世代、立場、日頃はあまり意見を言わない方にもどんどんご協力いただければと思います。

来るのを待っているだけではなく、こちらからヒアリングに行ってもいいんです。とにかくいろいろなやり方で声を拾い上げていくことを事務局の方にもご検討いただきたいと思えますし、また円卓会議との連携で行うことになっておりますから、いろいろな案を出していきませんかと思えます。

○事務局

ワークショップの進め方は、今会長がおっしゃったように非常に重要で非常に難しいと考えております。ワークショップの進め方についてもいろいろな意見を伺ったうえで、ぜひ皆さんに問いかけをしたいと思っております。その時や今日終わってからも構いませんので、何かご意見があれば事務局の方にメールでもFAXでも、お声を寄せていただきたいと思います。その上でワークショップの進め方を事務局で検討しまして、会長副会長をはじめ皆さんに相談させていただきながら具体的に進めていきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

◇越川市長

ネットベースやヒアリングも含めて、あるいは中学生を集めるようなワークショップもぜひ企画したいと思っております。それから外国人の定住人口が今1,500人ほど銚子にいるということで、外国人定住者に優しいまちづくりを進めるためのワークショップも必要なのではないかと考えております。

◆宮崎委員

これからの夢がある若い人を中心としたワークショップがいいと思っております。ここにいる50代60代じゃなくて。

◇越川市長

若い人と女性は必須だと思います。それからお年を召した方のご意見ももちろん大切です。それが今回のライフステージごとの計画づくりではないかと思っております。

◆木村委員

小さいワークショップを行う場合は、千葉科学大学のエクステンションセンターを有効活用してもらいたいと思っております。セレクト市場の中にあり、立ち寄りやすいかと思っております。また市であまり活用されていないような施設があればそこで開催することもいいと思っております。このあたりだけで開くと参加できない方もいるかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

◇越川市長

12月のことですが、千葉科学大学の伊永先生のゼミの学生さんたちが5~6人いらっしゃいまして、我々も銚子のまちづくりに参加したい、いろいろな提案があるんだと1時間ほど情報交換させていただきました。ぜひ科学大学の学生さんの提案というのもいただければと思っております。

◆加瀬委員

平成13年に作られたものからいろいろとかい離があり、今回見直すとのことですが、人口のかい離が非常に大きく出ているということですが、なぜそんなにかい離してしまったのが問題です。こういう統計は実質的にそこまで変わらないと思っておりますが、作る側の中で基本

的な観測値をいいものを基準にして作ってしまったのではないかと思います。しっかりと現実を見据えた中で議論がなされないと本当にいいものはできませんので、実態の正確なデータを提供したうえで議論を進めていきたいと思います。

それと、この総合計画というのとはどちらかというと大まかな柱になる部分で、表現としても具体的なものは入り込まないものになると思います。ただ実際にそれを作っていくに当たり、総合戦略の場合はKPIを目標値として設定し、その達成状況を効果検証するというようになっておりますが、そこまではありませんが、実際に作った後実行する担保がどのようになるのか、教えて頂ければと思います。

#### ○事務局

1点目の人口の件ですが、おっしゃるとおり「ルネッサンス 2025」を平成 13 年に策定した時、当時策定を始めた時の人口が確か 78,000 人くらいだったと記憶しております。その当時の社人研の人口推計によりますと、5 万人、4 万人という推計が出ている中で、将来像として 78,000 人と設定をしたのは、当然推計は踏まえておりましたが、当時はどこの市町村でも、人口を減らす計画、将来像というのはほとんどない状況でした。人口が上向きになりつつも 2025 年を展望した時には日本の人口は減っているという予測が出ており、増やすことはできないだろうという中で、社人研の人口推計を見たらうえて、実現していないような部分、企業誘致の話もしましたが、そういうことを進めることによって、少なくとも現状維持まではなんとかしていこうというのが当時の策定の状況だったと思います。おっしゃるとおり現実に即した計画にしていくべきだということがありましたので、昨年度総合戦略を策定した時には社人研では 25,000 人くらいの推計を 36,000 人にしておりますので、今回の総合計画の人口フレームを見るときには、当然ながら人口が増加する・現状維持ということはないと思います。直近で作った総合戦略の人口推計を基本とし、これに基づいてどう人口減少のフレームをもっと上げていくのかということになるのかなと思います。

それから検証についても、今までの総合計画には、総合戦略にある KPI のような目標値は入れていなかったと思います。今回この総合計画を現実的に進めるためには、目標設定なども当然必要になってくるかと思いますが。

本来ですと 5 か年の基本計画を作るときには、当面 5 か年の財政推計を見たらうえて投資的経費がこの程度使える余力がある、そしてそれに見合った 5 か年のプロジェクトを位置付けるべきかと思いますが、ご承知のとおり非常に財政状況が厳しい中でそれに基づいているとなかなか計画づくり自体が難しくなってくるということもあります。やはり 5 か年でどういう方向に向かっていくのかという夢ではありませんが方向性は持つていくべきだろうと思いますので、そういう視点で皆さんにご意見を頂ければと思います。

#### ●関谷会長

最後に一言だけ。これからいろいろなことを考えていかなければならないと思いますが、今日いろいろと意見を共有できたように、とにかくいろいろな声を拾い上げていくこと、そのための工夫はいろいろと行わなければならないと思います。とにかく現場の声を聞いて、現場にはどんな問題があるのか、どんな解決をしなければならないのかをしっかりと見極めながら、生きた計画を作っていく。当然わからないこともたくさんあるわけですから、それ

を知っている人にちゃんと聞くということも併せて組み込んでいく必要があるかと思えます。

それとこの計画は先ほども申し上げましたが「使える計画」にしていく必要があります。そのためにどこまでできるのか、そのこと自体もこれから議論していく必要があるかと思えますが、たとえばこの計画のどの項目を見ても、その計画を誰が進めるのかは明確になっていない。もちろん暗黙の前提として「担当課」となっているかと思えますが、担当課だけでこれらの事業はできないと思えます。どういう連携をしていく必要があるのか、どういう風に市民・民間・地域の力を活用していくのかということは、この計画を立てる段階で全部固められるわけではないと思えます。ただ、どんな協力が必要になってくるのか、あるいはそういう協力を仕掛けていけるような書き方をしないと、動きはなかなか膨らんでいかないかと思えますので、そこは計画の工夫のしどころだと言われております。なかなか生きた計画を作っているところは多くないのでイメージが湧かない部分もあるかと思えますが、ぜひ誰がどんな形で携われるのか、どんな協力の仕方があるのかというような、可能性の膨らむ計画にする必要があるかと思えます。

それと、総合計画はちょっと前までは「総花行政の縮図」だと言われていて、何でもかんでも載っていました。まちに関することが百科事典のように全部載っていた。それは、人口も増える経済も安定するということが自明の前提にできた時代のサンプルです。今は全部載せるなんて物理的に無理です。ならば、どういう強弱をつけるのかも問われてくるし、行政の姿勢として、ただ予算をつけて事業をやればいいという時代ではなくなってきた。総合戦略のKPIというのは、アウトプットだけではだめでアウトカムも問えという話です。つまり、予算をつけて事業を行いました、そしてそれに対してどう評価するのか、これじゃダメだということです。やりましたではなく、その事業をやったことによって現場の問題が具体的にこう変わりました、こう改善されました、ここまでしっかり問わないとダメだというのが今の基本的な流れです。本当にどういう改善があるのか、どんなことが出来たのか、ということをしっかり検証しながら問っていくことが求められます。総合計画というのは私のイメージだとそういうことも問いて見直していけるような計画にしないと、本当に生きた計画にはなっていきませんので、そのことも念頭に置く必要があると思えます。

また、いい計画というのは軌道修正が出来るような仕掛けがちゃんと含まれているものです。先ほど人口の読みが大幅に違ったということがありましたが、人口がなかなか増えていかなかった、予想より若い世代が減ってしまったといった場合に、じゃあ改めてどうするのか、その見直しの契機や軌道修正を図る体制なども念頭に置きながら考えていかないと、生きた計画にはならない。「いい計画は軌道修正が出来る」ということを念頭に置いておいていただければと思えます。

これから考えなければならぬところは多々ありますが、いろいろな形でご意見を頂戴できればと思えます。